

# 臨床情報使用に関するお知らせ

『研究課題名：非挿管 COVID-19 患者における腹臥位の有効性の検討』

## 【研究の背景および目的】

全世界で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が蔓延しています。米国集中治療学会から発表されているガイドラン(the Surviving Sepsis Campaign COVID-19 guidelines)によると、気管挿管下人工呼吸管理を要する COVID-19 肺炎患者に対し、腹臥位を推奨しています。一般的に、腹臥位は、臓器の重みによる背側の肺胞領域の虚脱を軽減し、機能的残気量を改善したり、重力の影響による換気血流不均等を改善したりすることによる酸素化の改善がされるといわれています。このことから、低酸素血症を呈する非挿管 COVID-19 患者でも腹臥位により酸素化の改善、呼吸仕事量の軽減を期待し、腹臥位の効果が期待できると考えました。また、酸素化の改善による自発呼吸回数や努力呼吸の抑制効果は、患者の自発呼吸誘発性肺傷害(patient self-inflicted lung injury: P-SILI)を抑制し、COVID-19 肺炎の重症化を抑制する可能性があります。本研究では非挿管 COVID-19 患者に対する腹臥位の有効性を明らかにすることを目的とします。

## 【研究対象および方法】

この研究は、東邦大学医療センター大森病院倫理委員会の承認を得て実施するものです。

2020 年 2 月 1 日～2021 年 6 月 30 日までに東邦大学医療センター大森病院において、COVID-19 に罹患し、入院された方を対象とします。

方法は、対象となる患者さんの診療録から、決められた調査項目を過去の診療データのみから収集し、評価します。

今回の研究で得られた成果を、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告することがありますが、個人を特定できるような情報が外部に漏れることは一切ありません。

本研究に関してご質問のある方、診療情報や病理解剖結果を研究に利用することを承諾されない方は、下記までご連絡下さい。

## 【連絡先および担当者】

東邦大学医療センター大森病院 看護部

1号館 5 階病棟看護師 村上 温子

電話 03-3762-4151 内線 3232